

## 世界好配当インフラ株ファンド(毎月分配型)

追加型投信／内外／株式

## 交付運用報告書

第153期(決算日2020年1月14日)

第154期(決算日2020年2月12日)

第155期(決算日2020年3月12日)

第156期(決算日2020年4月13日)

第157期(決算日2020年5月12日)

第158期(決算日2020年6月12日)

作成対象期間(2019年12月13日～2020年6月12日)

第158期末(2020年6月12日)	
基準価額	7,558円
純資産総額	4,083百万円
第153期～第158期	
騰落率	△ 13.2%
分配金(税込み)合計	90円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「世界好配当インフラ株ファンド(毎月分配型)」は、2020年6月12日に第158期の決算を行ないました。

当ファンドは、相対的に配当利回りの高い世界のインフラ関連企業の株式等に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

&lt;440825&gt;

## 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

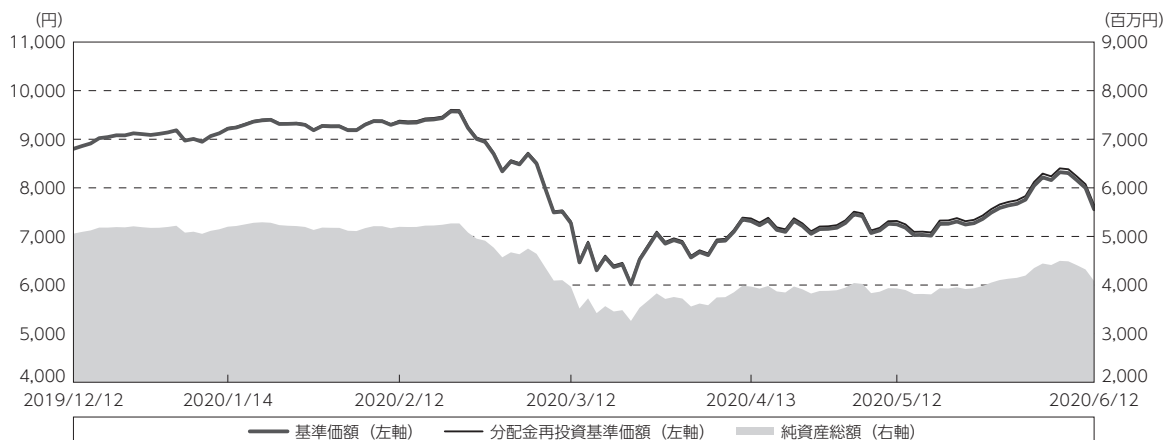
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2019年12月13日～2020年6月12日)



第153期首： 8,803円

第158期末： 7,558円 (既払分配金(税込み) :90円)

騰落率：△ 13.2% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2019年12月12日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、相対的に配当利回りの高い世界のインフラ関連企業の株式等に実質的に投資を行ない、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・米中両国が貿易交渉の第1段階に合意したこと。
- ・英国で2019年12月に行なわれた総選挙で、ボリス・ジョンソン首相率いる保守党が大勝したこと。
- ・新型コロナウイルスのパンデミック(世界的な大流行)が現実のものとなるなか、各国政府および中央銀行が異例の大型経済対策を導入し経済活動の停滞による悪影響の食い止めに乗り出したこと。

## ＜値下がり要因＞

- ・中国の春節期間中に新型コロナウイルスが発生し、消費マインドを後退させたこと。
- ・新型コロナウイルスがパンデミックとなり、各国政府が社会的距離や移動制限を課すロックダウン措置を取ったこと。
- ・OPEC（石油輸出国機構）とロシアによる会合で、原油の協調減産が決裂したこと。

## 1万口当たりの費用明細

（2019年12月13日～2020年6月12日）

項 目	第153期～第158期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	70	0.852	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(36)	(0.440)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(32)	(0.385)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	( 2 )	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	7	0.081	(b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	( 7 )	(0.081)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	2	0.020	(c) 有価証券取引税＝作成期間の有価証券取引税÷作成期間の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 株 式 ）	( 2 )	(0.020)	
(d) そ の 他 費 用	5	0.057	(d) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	( 3 )	(0.038)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	( 0 )	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	( 1 )	(0.017)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	( 0 )	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	84	1.010	
作成期間の平均基準価額は、8,193円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

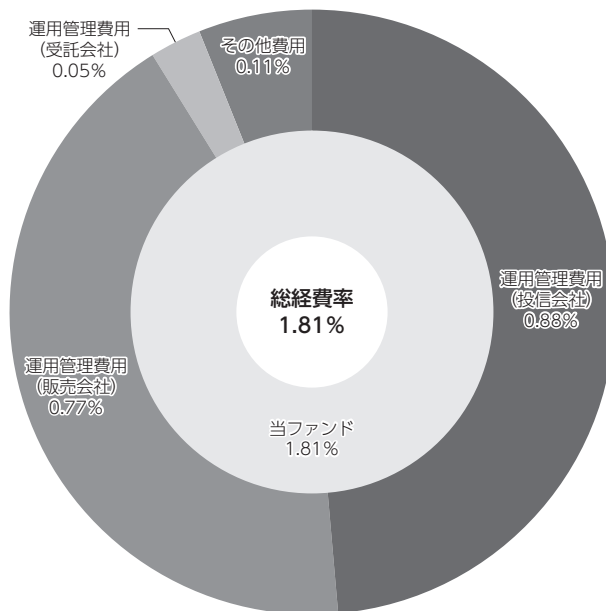
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含まれます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.81%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

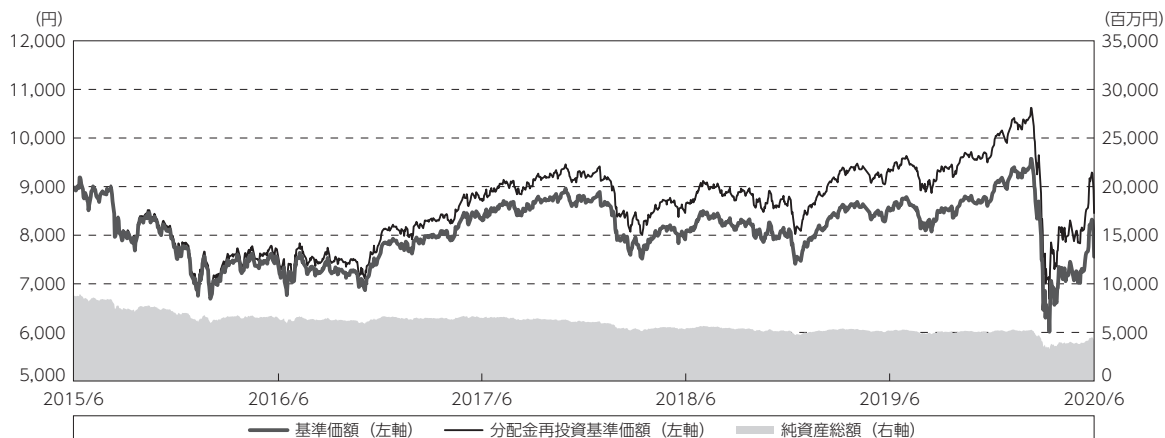
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

（2015年6月12日～2020年6月12日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2015年6月12日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2015年6月12日 決算日	2016年6月13日 決算日	2017年6月12日 決算日	2018年6月12日 決算日	2019年6月12日 決算日	2020年6月12日 決算日
基準価額 (円)	8,988	7,353	8,350	8,053	8,536	7,558
期間分配金合計(税込み) (円)	—	180	180	180	180	180
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 16.3	16.3	△ 1.5	8.3	△ 9.5
純資産総額 (百万円)	8,789	6,442	6,502	5,410	5,179	4,083

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 投資環境

（2019年12月13日～2020年6月12日）

## （海外株式市況）

2019年はリスク資産が堅調に推移し、経済指標や企業業績は弱含みましたが、主要中央銀行の支援策に助けられ、ポジティブな地合いで年末を迎えました。12月の良好なパフォーマンスの下支えとなったのが、米中貿易交渉の第1段階合意と、英国総選挙での保守党の勝利という2つの主要イベントでした。

この米中貿易交渉の第1段階合意の内容には、米国側が中国からの輸入品の追加関税を取り下げ、現行の中国製品に対する関税率を7.5%に引き下げることが盛り込まれました。これに対し中国側は米国産品の輸入を大幅に拡大し、農畜産品を購入することになっています。

英国では2019年12月に行なわれた総選挙で、ボリス・ジョンソン首相率いる保守党が大勝しました。保守党は下院で野党に大差で過半数議席を押さえたことで、ジョンソン首相がめざす英国の欧州連合（EU）離脱が進むこととなりました。

各国中央銀行による支援策が継続し、米中貿易交渉が重要な合意案への署名という潜在的な節目に近づいたことで、2020年は楽観ムードで幕を開けました。市場のコンセンサスでは少なくとも2020年上期は、景気サイクル半ばの反発が主要テーマになるとみられ、金融市場ではこのコンセンサスが受け入れられたようで、債券利回りは上昇し、クレジット・スプレッドは小幅にタイト化、株式市場も好調に推移しました。

しかし、1年半ばに中国で新型コロナウイルスの感染が発生したことで、市場の楽観ムードは瞬時に後退し、2月、3月には世界各国で感染事例が報道され、中国国外への感染拡大が一段と鮮明となりました。

新型コロナウイルスのパンデミックが現実のものとなったことで、グローバル資産市場の再評価が進みました。結果的に、「質への逃避」傾向が強まり（特に米国国債およびアメリカドル）、投資家が流動性の確保を急いだためリスク資産の価格が大幅に落ち込みました。また、石油生産量を巡りロシアとサウジアラビアとの間で対立が生じたことを背景に原油価格が暴落し、既に脆弱な金融市場の更なる下落に拍車がかかりました。金融情勢（特に家計や企業への信用の流れ）の急速な逼迫を目の当たりにした各国中央銀行はこれにいち早く反応し、金融市場の腰折れを阻止するため一連の新たな経済対策を講じました。

ただ、政府によるロックダウン対策により、各国の経済活動の大部分で需給の流れが急に滞る事態となりました。これをきっかけに、各国政府は対策を継続的に講じ、需要安定化のための安全網の整備に取り組みました。この結果、各国では1日あたりの感染者数に減少傾向が見られ、段階的にロックダウンを解除する計画が進みました。政府および中央銀行が異例の大型経済対策を導入し経済活動の停滞による悪影響の食い止めに乗り出したことで、市場心理はやや回復しました。楽観姿勢が戻ってきたことを背景に、市場は期間末にかけて反発しました。

## （為替市況）

期間中における主要通貨（対円）は、右記の推移となりました。

円／アメリカドルの推移



円／ユーロの推移



## 当ファンドのポートフォリオ

（2019年12月13日～2020年6月12日）

## （当ファンド）

当ファンドは、「世界インフラ株マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

## （世界インフラ株マザーファンド）

先進国および新興国のインフラに関連したセクターの銘柄をバランスよく組み入れました。

期間末時点での組入比率の高い国は、アメリカ、カナダ、イタリアなどとなっています。セクター別では、世界のインフラ事業のトレンドから投資効果を楽しむために、パイプライン、電力公益、有料道路などのセクターを中心に幅広く分散投資を行ないました。

主な投資行動としては、有料道路、送電などのセクターの組入比率を引き下げた一方、電力公益セクターなどの組入比率を引き上げました。国別では、オーストラリアなどの組入比率を引き下げ、アメリカ、スペインなどの組入比率を引き上げました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2019年12月13日～2020年6月12日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

## 分配金

（2019年12月13日～2020年6月12日）

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第153期	第154期	第155期	第156期	第157期	第158期
	2019年12月13日～ 2020年1月14日	2020年1月15日～ 2020年2月12日	2020年2月13日～ 2020年3月12日	2020年3月13日～ 2020年4月13日	2020年4月14日～ 2020年5月12日	2020年5月13日～ 2020年6月12日
当期分配金 (対基準価額比率)	15 0.162%	15 0.160%	15 0.206%	15 0.205%	15 0.206%	15 0.198%
当期の収益	15	9	12	11	－	15
当期の収益以外	－	5	2	3	15	－
翌期繰越分配対象額	286	420	418	414	399	412

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

### （当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「世界インフラ株マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

### （世界インフラ株マザーファンド）

2020年1-3月期は経済指標や企業業績に脆弱さが見られましたが、世界的な封じ込め政策により多くの国々で新型コロナウイルスの感染率が低下しており、投資家による見通しは楽観的になっています。投資家は今後の景気回復へと目を向けつつあり、企業にとっては支払い能力の問題をいかに回避し、従業員を職場に復帰させられるかどうか、成否の目安となります。上場インフラ銘柄の多くはバランスシートが堅固であり、景気下降局面を耐え抜く力があるだけでなく、安定的かつ一定水準のキャッシュフローをもたらす資産を保有および運営しています。市場のボラティリティは落ち着きつつあるため、グローバル上場インフラセクターにおいて魅力的なバリュエーション（価値評価）でクオリティーの高い銘柄に注目した運用を行なう方針です。

長期的にみてリスクに見合ったリターンをもたらすと予想されるインフラ企業を見極め、それらに投資することをめざします。インフラ企業が保有している資産を分析することは、将来的な収益や収入源の長期的なクオリティーを判断するうえで極めて重要となります。ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）に基づくシステムチックな手法を採用することでインフラ企業の長期的な潜在価値を特定し、詳細なボトム・アップのファンダメンタルズ分析を駆使した戦略を用いて、割安かつキャッシュフローが予想しやすい企業を選定します。キャッシュフローの予想がしやすいのは、独占ないし独占に近い状態にあり、生活に不可欠なサービスを提供する企業であることが一般的です。様々な資産クラスと地域に分散投資しており、組入銘柄の事業は景気サイクルを通じて安定しています。銘柄選択においては資本構成が適切な企業の選定に努めています。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## お知らせ

2019年12月13日から2020年6月12日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

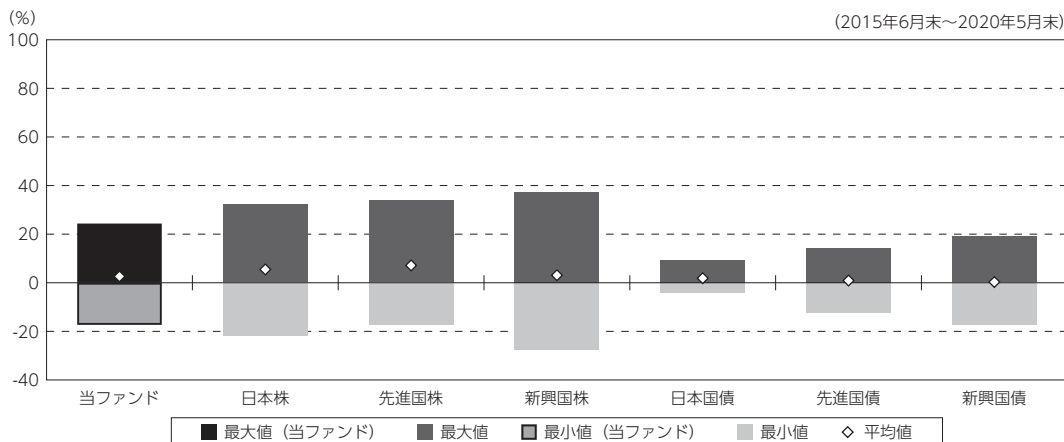


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2007年4月26日から原則無期限です。	
運用方針	主として「世界インフラ株マザーファンド」受益証券に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	世界好配当インフラ株ファンド (毎月分配型)	「世界インフラ株マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	世界インフラ株マザーファンド	世界各国の企業が発行する金融商品取引所上場株式および株式に類似する権利を主要投資対象とします。
運用方法	「世界インフラ株マザーファンド」受益証券への投資を通じて、主として、世界各国のインフラ関連企業の金融商品取引所上場の株式および株式に類似する権利（以下、「株式等」といいます。）に投資を行ない、安定した収益の確保と中長期的な信託財産の成長をめざします。株式等の銘柄選定にあたっては、市場動向や銘柄毎の成長性、収益性および流動性などを勘案して投資を行ないません。株式等の組入比率は、高位を維持することを基本とします。なお、株式に類似する権利への投資比率は、信託財産の純資産総額の50%未満とします。外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行ないませんが、市況環境などを勘案して為替ヘッジを行なうことがあります。この場合、ヘッジコストなどを勘案して、当該外貨建資産と異なる通貨により為替ヘッジを行なうこともあります。	
分配方針	第1計算期および第2計算期は収益分配を行ないません。第3計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。ただし、基準価額水準などを勘案し、上記安定分配相当額のほか、委託者が決定する額を付加して分配を行なう場合があります。	

## （参考情報）

### ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	24.4	32.2	34.1	37.2	9.3	14.0	19.3
最小値	△ 17.3	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	2.6	5.5	7.1	3.1	1.9	0.9	0.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年6月から2020年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

### 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

### 指数について

●東証株価指数（TOPIX、配当込）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

（2020年6月12日現在）

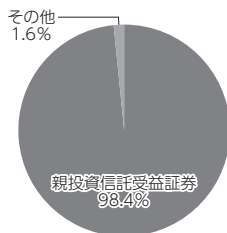
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第158期末
世界インフラ株マザーファンド	98.4%
組入銘柄数	1銘柄

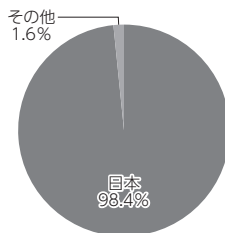
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

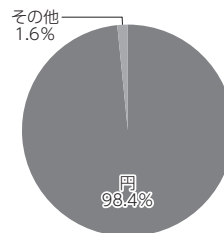
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第153期末	第154期末	第155期末	第156期末	第157期末	第158期末
	2020年1月14日	2020年2月12日	2020年3月12日	2020年4月13日	2020年5月12日	2020年6月12日
純資産総額	5,200,745,538円	5,197,974,550円	3,966,051,268円	3,969,102,130円	3,930,544,521円	4,083,041,181円
受益権総口数	5,642,254,874口	5,558,261,674口	5,452,929,019口	5,425,116,066口	5,421,734,245口	5,402,246,426口
1万口当たり基準価額	9,217円	9,352円	7,273円	7,316円	7,250円	7,558円

（注）当作成期間（第153期～第158期）中における追加設定元本額は61,130,736円、同解約元本額は403,958,322円です。

## 組入上位ファンドの概要

## 世界インフラ株マザーファンド

## 【基準価額の推移】

(2019年6月13日～2020年6月12日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2019年6月13日～2020年6月12日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株 式)	19 (19)	0.122 (0.122)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	5 (5)	0.032 (0.032)
(c) その他費用 (保管費用)	14 (12)	0.091 (0.075)
(その他)	(3)	(0.017)
合計	38	0.245

期中の平均基準価額は、15,819円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 【組入上位10銘柄】

(2020年6月12日現在)

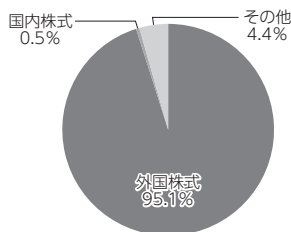
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	CHENIERE ENERGY INC	エネルギー	アメリカドル	アメリカ	5.8
2	SEMPRA ENERGY	公益事業	アメリカドル	アメリカ	5.7
3	TC ENERGY CORP	エネルギー	カナダドル	カナダ	4.9
4	AMERICAN ELECTRIC POWER	公益事業	アメリカドル	アメリカ	4.9
5	NEXTERA ENERGY INC	公益事業	アメリカドル	アメリカ	4.8
6	TRANSURBAN GROUP	運輸	オーストラリアドル	オーストラリア	4.2
7	ATLANTIA SPA	運輸	ユーロ	イタリア	4.0
8	ENBRIDGE INC	エネルギー	カナダドル	カナダ	3.8
9	UNITED UTILITIES GROUP PLC	公益事業	イギリスポンド	イギリス	3.5
10	AENA SA	運輸	ユーロ	スペイン	3.4
	組入銘柄数			41銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

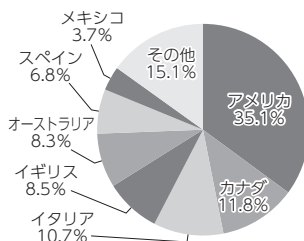
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

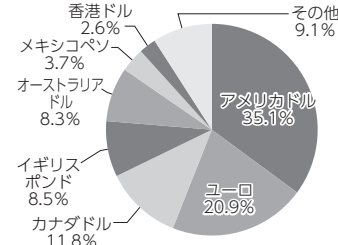
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。